

御絵伝 (その4)

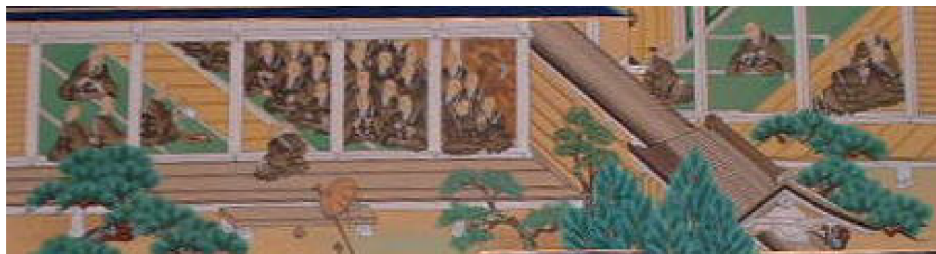
報恩講の時、内陣の余間に飾られる親鸞聖人の御生涯を描いた御絵伝は、御伝抄の内容を描いたものです。縦長の画幅のなかに、下から上へ順番に親鸞聖人のご生涯を見ることが出来ます。

第二軸・第二図 「信行両座」



吉水の禅房で行信両座を分け、それぞれの所信を試みている情景です。右半分は信行両座に分けることについて内談しているところを描き、左半分は内談の翌日、信行両座に分けて親鸞聖人が記帳しているところを描いています。

第二軸・第三図 「信心諍論」



吉水の禅房で、親鸞聖人の信心も法然上人の信心も同一であるということが問題になり、正信房以下の人々と論争されました。そこで、法然上人の判決が信心に変わりがないとされたので、今更ながら、親鸞聖人の信心堅固に驚嘆された情景が描かれています。

寺紋入りの鬼瓦



また、扇は末広ともいい将来発展することに通じるのだとか。
この夏は、優雅に扇子を使って、猛暑を乗り切りますよ。



本堂東側屋根



継職法要記念の扇子

『三つ日の丸扇』の寺紋です。覚えておいてください。
古代では扇に神仏が宿るとされており、風を送り「神仏を仰ぎ寄せる」ことを意味したとか。扇を所持していることは一種の厄除けにもなっていた戦国時代、武将が軍扇を持ち全軍を指揮したのも勝利を祈念したからだそうです。

突然ですが、善教寺の寺紋をご存知ですか？

「三つ日の丸扇」の寺紋です。覚えておいてください。
突然ですが、善教寺の寺紋をご存知ですか？

住職レター

暑い毎日です。この時期私の必須アイテムは、扇子。優雅に扇子を使えば、涼の雰囲気伝わり良いのですが、暑さに顔をしかめながら使っております。今日は、扇子つながりの、お話しです。

実はつい先日、ある寺の住職継職の記念品として、一對の扇子を頂きました。まだ箱に納めたままです。場所に応じて扇子を使い分ければ、格好良いのですが、そうもいきません。同じ扇子を、そのシーンでは使い倒します。